

4. 基本設計の方針（概要版）

「岩内町義務教育学校 基本構想・基本計画（R2.3策定）」で示された**6つの目指すべき姿**をもとに、基本設計の方針を以下に示します。

(1) 安全性の確保

①地震に強い学校施設

- ・ **既存校舎棟は構造体のみ残し、仕上げ、設備を更新**する方針とし、非構造部材の耐震性を確保します。
- ・ 既存屋体棟は、体育器具、照明器具等の非構造部材について、耐震化を施す改修計画とします。

②津波・洪水に強い学校

- ・ 計画地は**津波浸水想定区域**及び**洪水浸水想定区域の区域外**になります。

③防災機能を備えた学校施設

- ・ 既存施設の**建物内及び敷地内のインフラ（上下水道等）は再整備**し、ライフラインの耐震性を確保します。
- ・ 避難施設として設備の充実を図ります。（**備蓄庫、自家発電機の設置検討**）

④安全で安心な学校施設

- ・ 児童生徒の昇降口（玄関）などに、**防犯カメラを設置することにより防犯性を確保**します。
- ・ **食物アレルギー対応食の提供やドライ方式化**など、安全性に配慮したより**適切な給食施設・設備の整備**を行います。

(2) 快適性の確保

①学習能率の向上に資する快適な学校施設

- ・ 日照・採光・通風等に配慮するとともに、地域性や省エネルギーも考慮しながら、**熱中症対策のために冷暖房設備を整備**します。

②バリアフリーに配慮した環境

- ・ 既存校舎棟、増築校舎棟の階高をそろえるなど、学校施設内の床の段差解消を図ります。
- ・ **増築校舎棟にエレベーターを設置**します。

(3) 学習活動への適応性

①習熟度指導、少人数指導等を行う空間

- ・ **普通教室の他、1～8年生には各学年に1つのワークスペース（WS）や、多目的教室、相談室等**を設けます。

②充実した観察・実験を行うための環境

- ・ 児童生徒に対し科学的に探求する学習活動の充実を図るため、各年代に応じた理科教育の充実に向けた整備を検討します。

③調べ学習や観察実験の成果発表等に活用でき、外国語と親しめる教育環境への対応

- ・ **ICT環境に対応した学習環境**について実施設計にて検討を深め、学校施設内において日常的にICTを活用できる環境づくりを目指します。
- ・ **外国語教育などの新たな学習内容に円滑に対応**するため、教育環境の充実に向けた学校施設の整備を検討します。

④良好な学校生活環境の確保

- ・ 日常的な交流の場として廊下や階段廻りの移動空間を自然に交流が生まれる空間として計画します。

(4) 環境への適応性

①環境負荷低減を考慮した学校施設

- ・ 既存校舎棟、屋体棟ともに、**外断熱改修を施し暖冷房負荷の低減**を図ります。

②再生可能エネルギーや省エネルギー技術を活用した環境教育

- ・ **太陽光パネル及び蓄電池、高効率暖冷房の導入を検討し、ZEB Ready※**取得を目指します。

※ZEB Ready(ゼブ・レディ) Zero Energy Building Ready

～建物で消費する年間の一次エネルギー収支をゼロにすることを目指す(Readyは省エネ50%削減の指標)

(5) 地域の拠点化

- ・ 計画地は**町内の中心市街地である利点を最大限に活かし**、地域の生涯学習等の拠点となる学校施設としての利用を検討します。
- ・ 施設管理がしやすい管理区域が形成できる**プランニング**とし、地域の拠点となる学校開放の実現を目指します。

(6) 経済性

- ・ 建設費用のみならず、維持管理費用にも配慮した施設整備とします。
- ・ **既存校舎棟、屋体棟をリノベーションし、校舎の一部を増築する整備手法**を採用することで、建設費用の削減を図ります。
- ・ 高低差のある計画地において大規模な造成工事を避ける配置計画を採用することで造成費用を抑えます。
- ・ ガルバリウム鋼板（外壁）やリノリウム（床材）など、メンテナンスが少なくランニングコスト削減につながる素材の採用を検討します。